女性管理職が語る

あなたも来た船には乗って

日本HP
コンシューマー事業本部 本部長
沼田 綾子氏

ぬまた・あやこ　2001年、コンパックコンピュータ（現日本HP）入社。Eコマースやマーケティングの部署を経て16年にコンシューマーPC製品部へ異動。17年5月から現職。

2019年からこのコラムを約2カ月に1回の頻度で書いてきて、今回が最後となります。この4年間はちょうど私が管理職として独り立ちし、マネージャー像を模索しながら、もがいた時期でもありました。プライベートでも子供の受験や進学、思春期の悩みなども重なり楽しくも大変な時期でもありました。

さらに新型コロナウイルスの流行で、働き方や仕事への価値観が変化し、社会全体が揺れ動いた時期でもあります。

執筆に当たり、マネージャーという仕事をやらせてもらっている一人の人間として、その時々に感じたことや学んだことをただただ素直に等身大で書いていこうと決めていました。過去20回の連載を読み直すと、そのときどきの私自身の喜びや葛藤を取り上げており、その時の気持ちがビビットに思い出されました。

マネージャーという役割で仕事をしていて改めて感じる楽しさは、人が変化し成長する姿が私自身の喜びになる点です。一人ひとりの努力やアイデアが集まりチームで成果を出せたときも、一人で成し遂げる以上のうれしさがあります。

以前、上司に「優れた会社とそうでない会社の違いは何だと思う？」と聞かれたときのことです。私が「優れた経営層がいることですかね」と答えたところ、上司から「それも一理あるけど、現場のマネージャーたちがどれだけ優秀か、どれだけ現場を引っ張れるかで会社の力が決まるものだ」と言われ、なるほど会社の足腰の部分を支えることがミドルラインのマネージャーの仕事なのかと励まされました。

また、就任当初、どんなマネージャーになりたいのか全くイメージがわかないなか、国内外の優れたマネージャーたちと一緒に仕事をすることで学んだことも多々あります。特に海外にはさまざまなタイプの女性マネージャーがおり、憧れと尊敬を抱ける女性マネージャーにたくさん会うことができました。

彼女らのマネジメントスタイルや性格もさまざまでしたが、いくつか共通項もありました。相手を尊重したコミュニケーションの仕方と深く理解しようとする姿勢、意見を表明すべき時には率直にはっきりと主張する点、そして常にパワフルでポジティブな点です。ビジネスではさまざまな問題にぶつかるものですが、メンタルタフネスも一つの資質のようなものなのだなと感じました。

積極的に責任を背負うポジションにつきたくない、あまり昇進したくないという人もいると思いますが、私はこの仕事を通じて、自分の人生でこれまでにない豊かな経験をさせてもらいました。もし少しでもマネージャーという仕事に興味があり、チャンスが与えられるならば、ぜひ勇気を奮って一歩踏み出してもらいたいと思います。

このコラムで最初に書いた文章のタイトルは「未熟でも来た船には乗ろう」でした。初めて管理職についた当時、一歩踏み出す勇気をもらった言葉です。この言葉を、今度は私から新たなチャレンジに踏み出す皆さんに贈りたいと思います。そして私自身も、自分を成長させてくれるこのマネージャーという仕事を愛していきたいと思っています。